

確かな読みを通して自分なりの考えをもつ指導の工夫

～第3学年国語「海をかつとばせ」の実践から～

阿賀野市立京ヶ瀬小学校

教諭 井浦 育子

1 実践の概要（「海をかつとばせ」全8時間）

（1）指導の手だて

本校の研究主題「確かな読みの力の育成」を受け、クラスの課題解決に向けて次のような手だてを講じた。確かな読みの力を身に付けさせるために、①言語活動を中核に位置付けた単元構成の工夫、②児童の考えを確かなものにする教師の支援を研修の中に位置付け、その中で子どもたちの「考える力」を育てる授業実践を行った。

| | |
|-----------------------|----------------------|
| ①言語活動を中核に位置付けた単元構成の工夫 | ②児童の考えを確かなものにする教師の支援 |
| ○読みの目的を明確にした言語活動の設定 | ○発問の工夫 ○交流形態の工夫 |
| ○言語活動を通して習得すべき事項の明確化 | ○教室掲示、板書等環境整備の工夫 |
| ○言語活動とのつながりを配慮した課題の設定 | ○ワークシートの工夫 |
| ○場や目的に合わせた表現の工夫 | ○振り返りや評価の場の設定 |

本単元は、学習指導要領3、4学年の読むことの内容「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を受けて設定したものである。

（2）指導の実際（本時4／8）

場面ごとに主人公（ワタル）の行動や様子を読み取って主人公のワタルらしさを整理し、叙述に基づいてその人柄や気持ちをとらえていく。その中で自分なりに場面の名前を考えたり、ワタルと自分とを比べて考えたりする力が身に付くように本時の展開を考えた。

①言語活動を中核に位置付けた単元構成の工夫

○言語活動とのつながりを配慮した課題の設定

本時では、まず第4場面のワタルらしさをそれまでの読み取りから「なワタル」と自分なりに場面の名前を考える課題を設定した。そして、どうして「なワタル」と考えたのか、叙述を基にその理由を考えさせた。理由に当たる叙述（会話や気持ち、情景など）にサイドラインを引き、そこからワタルらしさが分かることを確認することができた。

最後に、「ワタルと自分を比べて考えたことを発表する」という単元を通した課題を設定した。先に考えていた「なワタル」は、自分で考えた名前でありこの場面のワタルらしさを示しているので、「なワタル」を基にしてワタルと自分とを比べて考え、それを表現することへとスムーズにつなげることができた。

○場や目的に合わせた表現の工夫

発問

今までの場面と同じように、学習場面のワタルと自分を比べて、考えたことをグループで発表させた。ここまでの発問では、場面の名前を考えたりその理由を叙述から探したりして、ワタルらしさを考えてきている。本時の場面でのワタルらしさをしっかりとらえた上で、「ワタルと似ているのか」、「ワタルと違うのか」の観点で自分と比べて考えさせた。

「私もワタルと似ていて～」「私はワタルと違って～」など、観点到繋がる話形を用いて第

4場面のワタルと自分とを比べて自分の考えを表現することができた。

②考えを確かにする教師の支援

○交流の形態の工夫

隣の席のペアで自分の考えを交流した。「なワタル」と考えたこととその根拠となる叙述を發表し合った。同じ名前であっても根拠となる叙述が異なっていたり、同じ所にサイドラインを引いていても考えた名前が異なっていたりして、友達の考えるワタルらしさを知ることができた。同時に自分の考えをしっかりと確認することもできた。

ワタルと自分とを比べて考えたことは、グループで交流した。ぼくならこうするといった自分の考えや判断も入れて發表できるようにした。友達の感じ方と自分の感じ方の違いを意識しながら感想を交流をすることができた。

○ワークシートの工夫

ワタルらしさを叙述に即して考えられるように、教科書の第4場面の文章を載せたワークシートを活用した。その際、

自分の考えと友達の考えが区別できるようにペンで色分けをした。また、ワタルと自分を比べて考える時は、教科書の話形を参考にしたワークシートを使用した。「ワタルと似ているのか」、「ワタルと違うのか」の観点から、自分の考えをまとめて發表することができた。

○教室掲示、板書等環境整備の工夫

これまで学習してきたことは、教室壁面に掲示し、いつでも振り返ることができるようにした。本時でも、拡大文に場面の名前を書き込んだり、子どもたちのサイドラインを引いたりして全体で確認し、ワタルと自分との比較につなげていった。

○振り返りや評価の場の設定

終末に、次の観点で自己評価をする。

- ①自分の考えを持つことができたか。(なワタル)
- ②友達と意見交流できたか。
- ③ワタルと自分を比べて考えたことを發表できたか。
- ④友達の意見と同じ・似ている・違うことに気付くことができたか。

2 成果と課題

①「場面の名前を考える活動は、叙述に即してワタルの気持ちや人柄を読み取ることができたか。」

○叙述に即して読むことで、自分なりに考えた場面の名前 なワタルを考えることができた。ペアやグループ学習では、根拠となるサイドラインが同じであっても場面の名前が異なったり、根拠となるサイドラインが同じであっても場面の名前が異なっていたりと、いろいろな読み取り方があることに気付くこともできた。また、名前の根拠となる叙述(ワタルの気持ちや人柄)にサイドラインを引いたことは、自分の考えを確認したり、場面の名前を考え直したりすることに有効であった。

△全体で場面のワタルらしさをまとめたり確認したりするときは、場面中のワタルの気持ちの移り変わりを整理するとよい。

②「話形を決めたワークシートは、ワタルと自分とを比べて考えるために有効な手だてであったか。」

○ワークシートで確認しながらワタルの気持ちや人柄と自分とを比べて考えることができた。

△気持ちや人柄でないこと(野球はしたことがないから似ていないなど)と比べることがないように、発問時に配慮が必要であった。

③△本時の学びを振り返るときに、自由記述の欄があると子どもたちの学習への意欲や考え、思いなどがより見えてくるので今後の活動で設けていく。